

# 彦根城博物館だより

Hikone Castle Museum News 2025.3.1

148

## 資料紹介

喜多流謡本 三十冊

当館蔵



一冊に五曲、計百五十曲を収めた喜多流の謡本。謡本とは、謡曲の詞章を記し、その右側に旋律や拍子を指示する符号を記した譜本の一種です。

この謡本は、箱蓋裏の墨書から、喜多流宗家八世である親能直筆と考えられる品です。世子時代に親能に入門し、喜多流の能を愛好した十代直幸（二七三〜二七八九）が、祐筆の平石惣九郎に命じて入手させました。藩主の謡本にふさわしく、表紙は紺地雲繋文様の裂、題箋は金砂子で青海波と霞を表した料紙、見返しも箔散らしとする豪華な装幀となっています。井伊家と喜多流の繋がりを示す作例のひとつです。

\*本作品はテーマ展「井伊家と能 大名文化の精華」で展示します。

# 展示案内

2025年

# 3月～6月

常設展示  
ほんもの“との出会い”

—彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示—

特別公開

2/22 土

3/16 日

展示室 1

\*3月11日(火)は休館

## 雛と雛道具

安政五年(一八五八)、井伊家十三代直弼の息女弥千代(一八四六～一九二七)は、高松藩松平家世子頼聡に嫁ぎました。婚礼に際し、大揃えの婚礼調度とともに雛と雛道具が調えられました。

弥千代の雛は、近年、劣化が進み、展示できない状態となっていました。この度、念願の修理を実施できました。本展では、そのお披露目を兼ねて、弥千代の雛と雛道具を、地元の旧家伝来の古今雛や御殿飾りとともに公開します。

### ◎ギャラリートーク◎

■日時 2月22日(土) 14時～(30分程度)

■講師 奥田晶子(当館学芸員)

\*関連講演会を開催します。詳細は当館HPをご覧ください。



弥千代の雛道具



弥千代の雛

テーマ展

3/20 木 祝

4/20 日

展示室 1

## 井伊家と能

—大名文化の精華—

能が幕府の式楽に定められた江戸時代、諸藩も役者を召し抱えて盛んに演能を行いました。彦根藩井伊家においても喜多流の能が浸透し、当主やその子弟、家臣らも謡や鼓などを嗜んだことが分かっています。十代直中の時には、能役者の召し抱えが始まり、さらには表御殿や榎御殿などに舞台も建設され、頻繁に能が催されました。本展では、大名家と能の関わりを、華やかな能道具、井伊家伝来の古文書とともに紹介します。

### ◎ギャラリートーク◎

■日時 3月22日(土) 14時～(30分程度)

■講師 茨木恵美(当館学芸員)

\*関連イベントを開催します。詳細は4頁をご覧ください。



能装束  
紅明窓茶段流水に菊文様唐織



能役者由緒帳

特別公開

4/24 木

5/13 火

展示室 1

## 国宝・彦根屏風

近世初期風俗画の傑作「彦根屏風」。

舞台は江戸時代、寛永年間(一六二四～四四)頃の京の遊里と考えられています。小袖や鬘、煙管や洋犬などの華やかな風俗、毛筋の一本一本に至るまで表現する緻密な筆致、金地を背景とする洗練された構図、琴棋書画や謡曲「芭蕉」など、機知あふれる「見立て」、全体を覆う静寂など、多様な魅力にあふれる世界を堪能ください。



風俗図(彦根屏風)

### ◎ギャラリートーク◎

■日時 4月26日(土) 14時～(30分程度)

■講師 高木文恵(当館学芸員)

特集展示

5/16 金

6/17 火

展示室 5・6

表千家同門会 全国大会開催記念

## 大名と茶の湯

—井伊家伝来—

茶道具名品選

大名物 宮土肩衝茶入



## 湖東焼賞玩

—蒐集と研究の軌跡—

湖東焼は、江戸時代後期に彦根で焼かれたやきものです。商人絹屋半兵衛らが開窯し、後に彦根藩が召し上げて直営化し、井伊家十二代直亮と十三代直弼のもとで黄金期を迎えました。本展では、井伊家伝来品と、新たに寄贈を受けた湖東焼コレクションなどを通じて、湖東焼の蒐集と研究の歴史を紹介します。

### ◎ギャラリートーク◎

■日時 5月17日(土) 14時～(30分程度)

■講師 奥田晶子(当館学芸員)

\*関連講座を開催します。詳細は4頁をご覧ください。



青磁牡丹陰刻文化生  
(鈴木仙太郎氏寄贈)



## 金亀玉鶴



## 画人としての森川許六

森川許六（二六五六～一七一五）は、知行が三百石の中級クラスの彦根藩士で、元禄から宝永期に活躍した俳人です。名は百仲、通称は五介、字は羽官、許六は号で、ほかに五老井、風狂堂、如石齋、碌々庵、無々居士、菊仏など、多くの号を有していました。元禄五年（一六九二）、江戸勤務となった許六は、松尾芭蕉の門を叩いて念願の弟子となりました。直接の交流は一年足らずではありましたが、芭蕉晩年の高弟として、蕉門十哲の一人にも数えられます。

許六は俳諧だけでなく画も得意としました。江戸での任を終えて帰国する際に芭蕉から与えられた「柴門の辞（許六離別詞）」の中に、「画はとつて予が師とし、風雅はをしへて予が弟子とす」という一文があります。芭蕉は許六に俳諧を教え、画は逆に許六から教わったというのです。

後世の記録になりますが、浅岡輿楨編『古画備考』に、許六が「永真門葉」であったとあります。永真とは、狩野宗家である中橋狩野家の祖、狩野安信を指します。許六は家督相続以前の延宝四年



森川許六筆「臨濟栽松・丹霞燒仏図」彦根・龍潭寺蔵

（二六七〇）と翌五年の二度にわたり父の江戸勤務に同行していることから、この時に学んだ可能性がありますが、一介の藩士が狩野宗家から画を直接学んだとは考えにくく、あるいはその弟子筋から学んだのではないのでしょうか。また、「門人」ではなく「門葉」とあるのは、専門の絵師としてではない立場での学習であったことを示唆するものです。

許六自身が記した「五老井ノ記」（二六九三）に、「文画に僻すること二十余年」とあります。当時許六は三十八歳、既に十代の頃には俳諧や画に熱心に取り組んでいたこととなります。彼に画の手ほどきをしたのは、父、与次右衛門であった可能性が指摘できます。許六は父より

宝蔵院流槍術を習い、天和二年（一六八二）には自筆の伝書を受けられて

いますが、その巻頭に見える龍や虎の画は、江戸の狩野派の風で慣れた筆致で描かれており、父もまた、画を一定程度以上習得してい

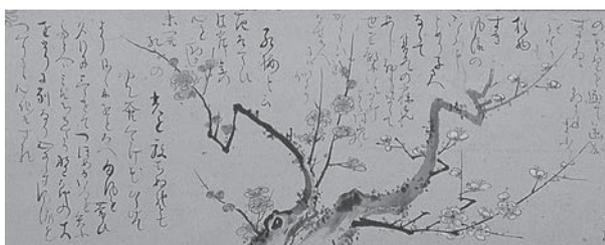
たとみられるのです。許六は若くして画の基礎を備えていたからこそ、江戸で本流筋から学ぶ機会を捉えたと見ることもできるでしょう。

現存が確認できる許六の画を通覧すると、手本をよく学習したとみられる、狩野派の粹にしっかりとおさまった画と、洒脱な感覚の画とがあります。狩野派系の画は、柔らかみのある太い筆線を所々に用いたものが多く、安信画の流れを確実に継承していたものと見られます。

許六はまた、中国の画論も熱心に学んでいたようで、自分なりに咀嚼した画論を著すほどでした。彼が最も重視したのは、唐の王維の画論をもととした「詩画一致」です。許六は詩を俳諧に置き換え

て、俳諧と画とは一体のものであるという考えを提唱、色々な俳文で言葉を変えながらも同じ趣旨のことを述べています。

この詩歌俳諧と画の一致という考えから、自身の画の神髄は俳画であると考えたのでしよう、常々、世の画を描く人は風姿のみを描いて風情を知らない、ということ語っていたといえます（渡辺吾仲『柿表紙』（一七〇二跋）。俳画というと、文人が心に任せて描くイメージがありますが、許六は、絵師であるという自負も併せ持っていた気配があります。俳文「画樓絵合ノ序」の中で、「布袋・福祿寿の二筆をおぼへて、あつぱれ画師の一行に入」とあります。一般論の文脈



森川許六筆「百華賦」

で述べているのですが、中国の神仏や人物は漢画を基調とする狩野派の好画題で、許六もこの種の画を描いています。自身も画師（絵師）の仲間入りを果たしていること自負していたことを暗に示しているように思われます。

（高木文恵）

# カレンダー&インフォメーション

3月	特別公開 雛と雛道具	22(土) 14:00~ 講演会	修理完成記念講演会「よみがえった雛人形〜文化財修理の最前線〜」 講師：坂田 さとこ氏(坂田墨珠堂 代表取締役社長)、奥田 晶子(当館学芸員)	*詳細は当館 HP をご覧ください。
		3月11日(火) メンテナンス 休館		
		16(日) 13:00~ 研究会	彦根藩資料調査研究会 公開研究会「儀礼・贈答からみる殿様の姿」 登壇者：外部研究員、当館学芸員	「殿様の日常生活」の解明に向けた外部研究員との共同研究によって明らかになった表御殿における儀礼や贈答について、井伊家 10 代直幸の時期を中心に紹介します。 ■日時 3月16日(日) 13:00～16:30 *受付 12:30～ ■受講料 500円 ■会場 当館能舞台正面見所 ■定員 60名(当日受付・先着順)
4月	テーマ展 井伊家と能 ―大名文化の精華―	20(木・祝) 催し	リニューアルオープン記念イベント	
		22(土) 14:00~ テーマ展 ギャラリートーク	講師：茨木 恵美(当館学芸員)	
	特別公開 国宝・彦根屏風	4月21日(月)～4月22日(火) 休館 4月23日(水) 一部休室		
5月		26(土) 14:00~ 特別公開 ギャラリートーク	講師：高木 文恵(当館学芸員)	
		5月14日(水)～5月15日(木) 休館		
	テーマ展 湖東焼賞玩 ―蒐集と研究の軌跡―	17(土) 14:00~ テーマ展 ギャラリートーク	講師：奥田 晶子(当館学芸員)	
6月		31(土) 14:00~ 講座	テーマ展関連講座「湖東焼 蒐集と研究の100年」 講師：奥田 晶子(当館学芸員)	
		7(土) 10:00~ 教室	古文書のみかた 初級編①	江戸時代に彦根で産声を上げ、彦根藩窯として隆盛した湖東焼は、明治時代に窯が廃止された後も、多くの人を魅了してきました。その蒐集と研究の歴史を紹介します。 ■日時 5月31日(土) 14:00～15:30 *受付 13:30～ ■資料代 100円 ■会場 当館講堂 ■定員 50名(当日受付・先着順)
		6月18日(水) 一部休室 6月19日(木)～6月20日(金) 休館		
		21(土) 10:00~ 教室	古文書のみかた 初級編②	

① リニューアルオープン記念セレモニー  
ミュージアムショップ・常設展示等がリニューアルすることを記念し、記念セレモニーを開催します。当日は、ひこにやんとわるにやんこ将軍も遊びに来ます!  
■時間 9:00～(どなたでもご覧いただけます)  
■会場 当館ロビー

② 体感! 大名家の能舞台  
江戸時代に建てられた由緒ある能舞台に、実際に上がることができる特別な見学会です。あわせて展覧会の解説も行います。  
■講師 茨木 恵美(当館学芸員)  
■時間 ①午前の部: 10:00～11:00  
②午後の部: 14:00～15:00 \*同内容  
■参加費 無料(観覧料が必要)  
■会場 当館展示室、能舞台  
■定員 各部10名  
\*事前申込制、応募者多数の場合は抽選  
■申込方法 彦根市電子申請サービスから申込(1人1回)  
■申込期間 2月21日(金)～3月5日(水)



**\*令和7年度支援スタッフを募集します\***  
当館の事業をサポートいただく支援スタッフを募集します。

■内容 ①教育普及事業 小学生対象体験講座の運営スタッフ(体験メニューの準備、指導補助)  
②調査研究事業 古文書解読ボランティア(彦根藩井伊家文書等の古文書解読)  
\*当館開催教室「古文書のみかた」を修了された方、または同程度の解読力を有する方が対象です。

■定員 各10名程度(先着順)  
■申込方法 「支援スタッフ係」まで、電話にてご応募ください。(8時30分～17時)  
■申込期間 3月1日(土)～15日(土)  
\*①・②を兼ねて登録していただくことも可能です。

**\*教室 古文書のみかた\***  
古文書解読を基礎から学ぶ「古文書のみかた 初級編」を開催します。

■開講日時 6月7日・21日、7月5日・19日、8月9日・23日(いずれも土曜日) 10:00～12:00  
■資料代 500円 ■会場 当館講堂  
■定員 35名 \*事前申込制、応募者多数の場合は抽選  
■申込方法 ①②いずれかの方法でお申し込みください。  
①彦根市電子申請サービスから申込(1人1回まで)  
②往復はがき(1人1通) 往信裏面に住所・氏名・電話番号を、返信宛名面に住所・氏名を明記し、「古文書のみかた」係に郵送  
■申込期間 4月1日(火)～18日(金) \*必着  
■その他 「古文書のみかた 中級編」は、開催は9月から12月、募集は7月の予定です。